

ピリピ人への手紙 第2章 13節

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」

目指すべきゴールに向かっている人の顔は輝いている。足を進めるだけ、そのゴールに近づいている実感がある。無駄足を踏んでいない充実感がある。たとえ、進める足もとが重く、辛くても、ゴールがある。途上の困難があっても、ゴールが前に控えている。ゴールがあらゆる困難を耐え忍び、進ませるちからとなる。

だから、目指すゴールに向かう者、その使命に生きている者の顔は輝く。それに優る輝きをもたらす使命がある。進むゴールがある。それは、自分から生まれたゴールや使命ではない。それらは、自分の地上のレースが終わると消滅してしまう。しかし、ここで語られているゴールと使命は、神は、とことわっている。

ゴールも使命も神が与えてくださる。あなたにでもあるが、ここではあなたがたと言われる。神に愛され、召された者たちに共同のゴールと使命を与えてくださる。与えられた事柄を志、成し遂げる力も、神が与えてくださる。それも、外からではなく、あなたがたのうちに働いて、とある。ゴールに向かう者たち、使命に生かされる者たちのうちに働かれる神体験がある。共におられるお方と目指すゴールがある。

2025年6月17日